

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成16年11月11日(2004.11.11)

【公開番号】特開2000-76367(P2000-76367A)

【公開日】平成12年3月14日(2000.3.14)

【出願番号】特願平10-257520

【国際特許分類第7版】

G 0 6 F 19/00

G 0 6 F 13/00

G 0 6 F 17/21

G 0 6 F 17/60

【F I】

G 0 6 F 15/22 N

G 0 6 F 13/00 3 5 1 G

G 0 6 F 15/20 5 9 6 A

G 0 6 F 15/21 Z

【手続補正書】

【提出日】平成15年11月18日(2003.11.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

リソースを処理可能に保持するワークスペースをユーザに提供するワークプロセス管理装置において、

複数のワークスペースを記憶するワークスペース記憶手段と、

報告元となるワークスペースと報告先となるワークスペースとを関係付ける情報を記憶するワークスペース間関係記憶手段と、

ワークスペース記憶手段に記憶されたワークスペースが保持するリソースに対する入出力を行う入出力手段と、

ワークスペース間関係記憶手段に前記関係付け情報を設定するワークスペース間関係設定手段と、

ワークスペース間関係記憶手段に記憶された関係付け情報に従って、報告元ワークスペースとして規定されたワークスペースが入出力手段により変更されたことに応じて、当該ワークスペースの報告先ワークスペースとして関係付けられたワークスペースに当該変更の内容を伝達するワークスペース間情報伝達手段と、

を備えたことを特徴とするワークプロセス管理装置。

【請求項2】

リソースを処理可能に保持するワークスペースをユーザに提供するワークプロセス管理装置において、

複数のワークスペースを記憶するワークスペース記憶手段と、

共同して作業がなされる複数のワークスペースを互いに関係付ける情報を記憶するワークスペース間関係記憶手段と、

ワークスペース記憶手段に記憶されたワークスペースが保持するリソースに対する入出力を行う入出力手段と、

ワークスペース間関係記憶手段に前記関係付け情報を設定するワークスペース間関係設定

手段と、

ワークスペース間関係記憶手段に記憶された関係付け情報に従って、共同作業を行うワークスペースが入出力手段により変更されたことに応じて、当該ワークスペースと関係付けられた他のワークスペースに当該変更と同一の変更を施すワークスペース間情報伝達手段と、

を備えたことを特徴とするワークプロセス管理装置。

【請求項3】

コンピュータに実行させるプログラムを前記コンピュータの入力手段が読取可能に記憶した記憶媒体において、

前記プログラムは、リソースを処理可能に保持する複数のワークスペースを記憶したワークスペースメモリからワークスペースを読み出す処理と、

報告元となるワークスペースと報告先となるワークスペースとを関係付ける情報を記憶したワークスペース間関係メモリから当該関係付け情報を読み出す処理と、

ワークスペースメモリに記憶されたワークスペースが保持するリソースを変更する入力を受け付ける処理と、

ワークスペース間関係メモリに前記関係付け情報を設定する入力を受け付ける処理と、

ワークスペース間関係メモリに記憶された関係付け情報に従って、報告元ワークスペースとして規定されたワークスペースが変更されたことに応じて、当該ワークスペースの報告先ワークスペースとして関係付けられたワークスペースに当該変更の内容を伝達する処理と、を前記コンピュータに実行させることを特徴とする記憶媒体。

【請求項4】

コンピュータに実行させるプログラムを前記コンピュータの入力手段が読取可能に記憶した記憶媒体において、

前記プログラムは、リソースを処理可能に保持する複数のワークスペースを記憶したワークスペースメモリからワークスペースを読み出す処理と、

共同して作業がなされる複数のワークスペースを互いに関係付ける情報を記憶したワークスペース間関係メモリから当該関係付け情報を読み出す処理と、

ワークスペースメモリに記憶されたワークスペースが保持するリソースを変更する入力を受け付ける処理と、

ワークスペース間関係メモリに前記関係付け情報を設定する入力を受け付ける処理と、

ワークスペース間関係メモリに記憶された関係付け情報に従って、共同作業を行うワークスペースが変更されたことに応じて、当該ワークスペースと関係付けられた他のワークスペースに当該変更と同一の変更を施す処理と、を前記コンピュータに実行させることを特徴とする記憶媒体。

【請求項5】

リソースを処理可能に保持するワークスペースをユーザに提供可能なワークプロセス管理装置が行うワークプロセス管理方法において、

ワークプロセス管理装置の入出力手段が、複数のワークスペースを記憶するワークスペース記憶手段に記憶されたワークスペースが保持するリソースに対する入出力を行い、

ワークプロセス管理装置のワークスペース間関係設定手段が、報告元となるワークスペースと報告先となるワークスペースとを関係付ける情報を記憶するワークスペース間関係記憶手段に前記関係付け情報を設定し、

ワークプロセス管理装置のワークスペース間情報伝達手段が、ワークスペース間関係記憶手段に記憶された関係付け情報に従って、報告元ワークスペースとして規定されたワークスペースが入出力手段により変更されたことに応じて、当該ワークスペースの報告先ワークスペースとして関係付けられたワークスペースに当該変更の内容を伝達することを特徴とするワークプロセス管理方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】ワークプロセス管理装置、方法、及び記憶媒体

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、電子的な文書等のオブジェクト（リソース）をアクセス等可能に保持する複数の作業環境（ワークスペース）をユーザに提供することによって業務の遂行を支援するワークプロセス管理装置、方法、及び記憶媒体に関し、特に、報告関係や共同作業関係に従ってワークスペースの変更を他のワークスペースに伝達するワークプロセス管理装置、方法、及び記憶媒体に関する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本発明は、このような従来の課題を解決するためになされたもので、リソースを処理可能に保持するワークスペースをユーザに提供するに際して、ワークスペース間の関係、つまり「場」を中心とした仕事の記述を行うことができるワークプロセス管理装置やワークプロセス管理方法や記憶媒体を提供することを目的とする。

更に具体的には、本発明では、例えば、どのワークスペースからどのワークスペースへ継続的な進捗報告がなされるべきかを定義することにより、このような報告をマルチワークスペース環境（すなわち、複数のワークスペースが提供される環境）において円滑に進めることのできるワークプロセス管理装置やワークプロセス管理方法や記憶媒体を提供することを目的とする。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

また、具体的には、本発明では、例えば、どのワークスペースとどのワークスペースとが継続的な共有の場（共同して作業がなされる場）として保たれるべきかを定義することにより、このような共有の場における共同作業をマルチワークスペース環境において円滑に進めることのできるワークプロセス管理装置やワークスペース管理方法や記憶媒体を提供することを目的とする。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

このように、本発明では、報告関係にあるワークスペース間での情報伝達処理や、共同作業関係にあるワークスペース間での情報伝達処理をコンピュータに実行させるプログラムを構成して、当該プログラムを記憶媒体に記憶させた態様とすることも有効である。

また、本発明は、ワークスペース管理方法として実現することもできる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0087

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0087】

このように記憶媒体を用いた場合にも、上記実施例で示した場合と同様に、共同作業関係にある複数のワークスペース間において、或るワークスペースに生じた変更と同一の変更を他のワークスペースに施すことを相互に行うことができる。

なお、ワークスペースメモリやワークスペース間関係メモリの構成としては、上記したのと同様に、種々な態様が用いられてもよい。

また、本発明は、ワークスペース管理方法として実施することも可能である。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0090

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0090】

また、本発明では、上記したワークプロセス管理装置により行われるのと同様な各種の処理をコンピュータに実行させることができるプログラムを構成し、当該プログラムをコンピュータの入力手段が読取可能にして記憶媒体に記憶させた態様とすることもできる。

また、本発明は、ワークスペース管理方法として実現することもできる。